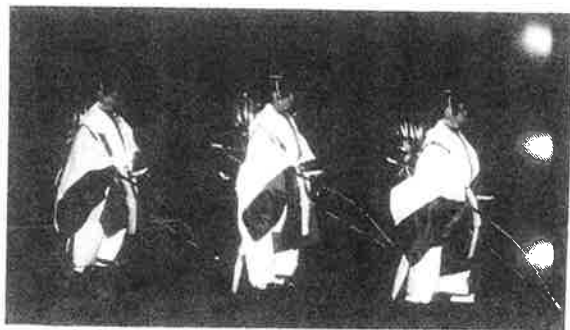


梨子地桐鳳凰中高蒔絵弓を得て

(従三位武官着用弓)

溝部学園理事長 相良 範子

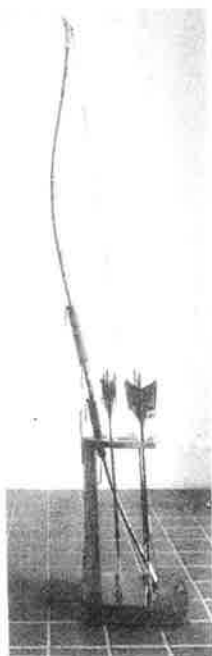


日本民族ほど弓矢を尊び愛した民族はいない。特にこ、九州が天孫神武の地として良質の竹に恵れ数多くの名匠名弓を残していることから、その発祥の地として目されています。日本の弓矢は単に生活の具にとゞまらず、世界に類のない美と剛の弓として発達し愛されてきました。

弓矢と破魔開運

弓矢と破魔開運の歴史は遠く、古くは鎮守府將軍源義家が堀川院の大床で弦打を行い魔性を祓い宸襟を安んじ奉ったことが故事に残っています。

この行事は宮中において今も鳴弦の儀として継承されて行われています。又一般では破魔矢、神事のつゆ祓い、上棟式、角力の弓取りや、創業の繁栄祈願、誕生、就学、婚礼等の慶祝行事に色々の形式で広く用いられているところです。この嚆矢は四枚羽根、大鷲、鷹羽根で鏃は鎗雁股を用いて開戦の嚆矢として、又武将名明の代りに使われた由緒深く目出度きものであります。この神矢も溝部学園弓道場びらきに肥後四代弓矢匠高橋蘇山師の弓矢をいたゞきました。



梨子地桐鳳凰中高蒔絵弓 (従三位武官着用弓)

この度溝部学園弓道部がよい成績をおさめましたので

何か記念にと考えていましたら、平成二年十一月十二日に行われました平成の「即位の礼」正殿の儀で威儀者が弓矢や矛、盾など威儀物を奉持して参列しましたが、その時に使われたのと同じ梓弓あすなぼこです。宮内庁に四十八本納入された精魂込めた記念すべき逸品です。学園に大切に保管されていますので、御希望の方は史談会を通じて御見学においで下さい。学校行事にも使用いたし歴史を現代に生かしたいと考えています。

梓弓については民俗学から中世には、より代としての歴史がありますが今回は紙面の都合にて割愛し、即位式の写真や使用された梓弓の写真のをのせることにします。

住吉様のお祭り

祭研究同人

「コンコンチキリン…」と鉦や太鼓のお囃子も賑やかに海上渡御が行なわれる住吉様のお祭りも、いまはもう見ることでない夏の風物詩となってしまった。

住吉様は、上筒男命・中筒男命・下筒男命の三筒男命と氣長足比売命をお祀りする社で、市内の浜町（通称向浜）に鎮座している。この神社の勧請には次のようないきさつがあった。

「宝暦四年（一七五四）二月、大坂に向った別府村の舟人が伊豫沖で暴風雨にあい、舟が転覆しようとした。この時、舟人たちが摂津の住吉大神に一心に祈願したところ風雨がおさまり無事大坂に到着することができた。その足で摂津の住吉大神に詣でたところ『吾を祈ること感ずるにあまりあり わが神霊を豊国に祭るならば末世に至とも汝を導き海上を守る』との託宣があったので、神宮寺に立ち寄り神霊をうけた。

永井右京は、その神霊を奉持して三月二日に大坂を立ち同月十日に帰村し、吉日の同月十九日に朝見宮の神伊織を宮主として万登浜に祠を建て鎮座奉った。」（託宣）

万登浜（のが浜）に勧請された住吉様は、寛政三年の朝見八幡社の無名文書によると、

「右御旅所（松原にある八幡社の）ノ内南ノ方ニ住吉宮一社御鎮座有之、摂津ノ住吉宮ヲ奉御勧請只今迄八十